



マダイの稚魚放流

ウォータースライダーで小網代湾へ
大きくなつてネと願い込め

海洋教育の一環に、11月小網代湾でマダイの稚魚放流が行われた。毎年、稚魚の放流はNPO法人小網代ハイル海育隊略称・小パール隊」とみうら学海海洋教育研究所がタイプアップしている。約50人の児童が参加し、滑り台のような『ウォータースライダー』を使い放流した。

放流された稚魚は体長1センチ前後で、神奈川県農林省栽培漁業協会が約1年かけて育てたという。小さなバケツに5〜6匹ずつ分けられた後に、湾内に放流された。白オースタースライダーの上には常に海水が流れ、魚が傷つかないよう工夫されている。関係者によると、標識をつけたマダイが20年後に大きくなれたマダイが20年後に大きくなれた。

時間かかるか、再生は絶対必要などとよびかけた。参加した児童は名向小学校が3年生、南下浦小学校は3～4年生。放流に際しなどと声をかけていた。

A black and white photograph of a dolphin leaping out of the water. The dolphin is positioned diagonally, with its body arched and its dorsal fin pointing upwards. Its dark dorsal side is visible against a lighter, textured background of water spray and droplets. The dolphin's pectoral fins are extended to the sides, and its tail is at the bottom left. The entire image has a distinct halftone dot pattern.

放流されたマダイの稚魚

機で捕獲された例があり、養殖されたマダイが最低でも20歳に達していたことがわかつたという。小網代の森と小網代湾が密接に繋がっているとし、小魚の稚魚はアマモやカジメをゆりかごに成長する。海水温が上昇し、アマモやカジメが枯れてしまい、海底が砂漠化している。海藻の中には花が咲き、実をつけ増える種類もある。回復させるには